

# 平成23年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立浦和高等学校)

目指す学校像	中高一貫教育校として、中学校と連携を密にし、生徒の個性と能力を重視した特色ある教育活動を展開する。
--------	---

重点目標	1 中高一貫教育の確立 2 授業と進路指導の充実 3 国際理解教育と開かれた学校づくりの推進
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	18名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高一貫校として、5年目を迎え、中学校第1期生が高校2年に進級した。</li> <li>内進生対象の総合系教育課程の検討が必要である。</li> <li>授業における中高教員の相互乗り入れ、行事や部活動等の中高合同実施を進め、それらの課題を解決する。</li> </ul>	中高一貫教育の確立	<ol style="list-style-type: none"> <li>①新教育課程の編成とともに中高6年間を見通したシラバスを再作成する。</li> <li>②中高合同研修会において中学校選択科目を検討する。中高一貫教育の接続・充実を図る。</li> <li>③中高接続の先進校視察や中高合同のSPPを本年度も引き続き実施する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高6年間を見通した分かりやすいシラバスが作成できたか。</li> <li>中高教員の相互授業乗り入れ状況</li> <li>中高合同部活動の実施状況</li> <li>先進校視察やSPPの実施回数と内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領に対応するシラバスの原案を作成することができた。</li> <li>国語・社会・理科・数学・英語・美術・家庭科で中学校の授業を受け持った。</li> <li>主にバドミントン・陸上・弓道・剣道・美術・書道等で合同部活動を実施した。</li> <li>先進校視察は1校のみ。SPP事業は予定どおり実施できた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高の連携を更に深め、授業・行事・部活動等の在り方を探っていく。</li> <li>新シラバスによる中高一貫教育の利点を生かした教育活動を展開する。</li> <li>中高一貫教育の成果の一つである学力向上・進学実績も含め、教育活動を検証する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高一貫校としての課題を把握し、それを改善しようと様々な取組をしていることは評価できる。</li> <li>内進生やその保護者に対して、教員や卒業生から、高校生活や学習方法、進路体験等を話してもらえ説明会等を今以上に開催して欲しい。</li> <li>行事の中高同時開催に際して、生徒の生の声を生かし、よりよいものになるよう検討して欲しい。</li> <li>中高教員の相互乗入授業や授業参観による授業改善を推進して欲しい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度大学入試センターの受験率は96.3%である。</li> <li>個別面談や進路ガイダンス進学補習等により、生徒の進学希望の実現が図られ、国公立大学を始めとする大学への高い現役進学率となっている。</li> <li>最新の教育施設、設備を活用し効果的な授業を実施している。</li> <li>校風でもある文武両道を推進し、活気ある部活動が行われている。家庭学習時間の確保や進路指導とのバランスにさらに工夫が必要である。</li> </ul>	授業と進路指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の学力向上と希望進路の実現を目指して、進路ガイダンス、土曜授業、進路補習や保護者進学セミナーを実施する。</li> <li>②CALLシステム等の情報機器を活用した授業等、週34時間授業を手厚い指導で推進する。</li> <li>③生徒による授業評価を実施するとともに先進校や予備校の指導法に学ぶ。</li> <li>④部活動指導等を通して、何事にも最後まで粘り強くやり抜く生徒を育て、国公立大学後期試験まで指導する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別面談や進路ガイダンス、進学補習等の実施回数</li> <li>大学入試センターの受験率</li> <li>現役進学率</li> <li>国公立大学や難関大学への進学状況</li> <li>NAVIセンターやCALLシステムの活用状況</li> <li>生徒による授業評価を実施し、活用できたか。</li> <li>先進校の研修会等への参加</li> <li>部活動の参加率や大会の成績</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三者面談(1・2年1回、3年2回)・二者面談(2回)、夏期講習37講座のべ1502人参加。授業日の進学補習は8講座約180名参加。</li> <li>大学入試センター出願率は96.3%であった。</li> <li>NAVIセンターは自習室の設置により利用が増加。CALLシステムは授業以外の活用ができなかった。</li> <li>生徒による授業評価を2回実施。教科会で活用方法を検討。</li> <li>予備校主催の教員セミナーのべ14名の教員が参加。</li> <li>部活動参加率は約96%。4部が全国大会出場。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設した学力向上委員会を中心に学力向上のための具体的施策を検討する。</li> <li>生徒による授業評価アンケートを授業改善に生かす方策を教科会を中心に検討する。</li> <li>予備校の指導力向上セミナーに参加することによって教員の資質向上を図り、難関大学を目指す生徒の進路実現を可能にする。</li> <li>部活動と学業の両立のために、効率的な部活動運営に努め、家庭学習時間の確保を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートによると家庭学習に良く取り組んでいる学年とそうでない学年がある。要求水準の差はあるにしても、成果の振るわない子を引き上げる補習等もして欲しい。</li> <li>内進生の卒業に際しては数値目標が問われるかもしれないが、それだけではなくどのような高校生活を送ったかということも大事である。</li> <li>これからの時代は情報機器の活用が重要だと思う。外部講師の派遣も一つの方法である。</li> <li>通学路における登下校のマナーが悪い。マナー向上のための指導をお願いしたい。</li> <li>海や山や川が近くにないとはいえ震災への備えをしておく必要がある。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>高い知性と豊かな感性を育て、国際社会でリーダーとして活躍する生徒育成のため、双方向の国際理解教育を推進している。</li> <li>ホームページの充実をはじめ、公開授業、学校説明会等様々な機会を活用し、情報提供に努めている。</li> <li>情報提供等を積極的に行って、本校教育活動に対する関心を高め、高校時から本校に入学する生徒に対する教育内容の一層の充実を図る。</li> </ul>	国際理解教育と開かれた学校づくりの推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>①海外研修派遣事業や米国高校生受け入れ事業、海外修学旅行等を実施する。</li> <li>②ホームページの充実を高め更新頻度を高める。</li> <li>③学校説明会の実施方法を工夫する等、本校入学希望者に対して、具体的な授業内容、進路指導計画等の情報提供が行えるようにする。</li> <li>④保護者、学校評議員・学校評価懇話会委員に適宜本校の教育活動について情報提供する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流等の実施回数とその内容</li> <li>ホームページの更新回数および閲覧回数</li> <li>学校説明会や公開授業の実施回数</li> <li>中学校訪問の回数</li> <li>保護者、学校評議員等への情報提供の回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外修学旅行11月、国際交流基金事業受け入れ2回、海外研修派遣事業10人、交換留学生1人、日韓交流研修2人、国際フェスティバル参加。</li> <li>HP更新回数65回(昨年比2.5倍)アクセス数やや減少。</li> <li>学校説明会3回、公開授業17回実施。</li> <li>教員による中学校訪問は7月に1回実施。</li> <li>学年便りを初めとする各種たよりで保護者には情報提供できた。学校評議員等への情報提供は不十分であった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>シカゴへの修学旅行は次年度以降も実施し交流事業を更に充実させる。</li> <li>各関係機関と連携し、国際交流事業を積極的に受け入れ参加していく。</li> <li>HPは市内高校情報システムへの乗り入れに伴いリニューアルを検討中。災害時の情報発信ツールも導入する。</li> <li>高い志願倍率ではあったが、今後も意欲的な生徒を集めるべく、説明会や公開授業の実施方法に工夫を重ねる。</li> <li>学校評価アンケートを継続し保護者生徒のニーズを把握。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行は行き先を変えて2年経ったが、有意義なものであることがわかった。交流事業は引き続き入れた形が良い。また、地理的にも時期的にも気候のよい場所・時期が良い。</li> <li>HPの更新、特に部活動のページの更新の頻度を増やして欲しい。学校外からその学校の様子を知るためには、HPが大変重要なものであることを再認識して欲しい。</li> <li>全体的な取り組みは素晴らしい。</li> <li>他の評価項目も達成度Bということであるが、Aに近いBであると思う。</li> </ul>